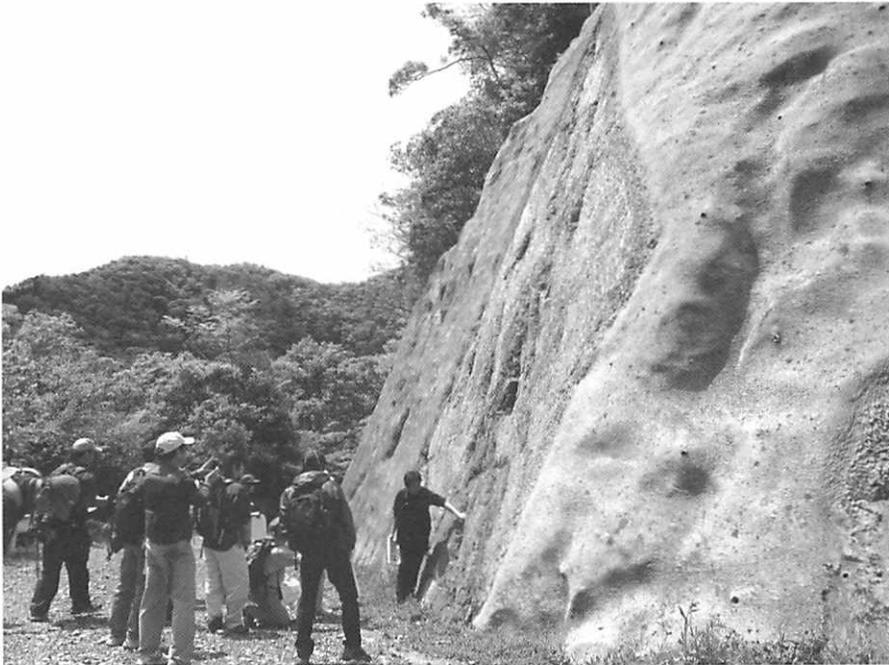


熊本地学会誌

Journal of the Kumamoto Geoscience Association

No. 167



目 次

「実践報告」 上流と下流の河床礫の違いを実感できるモデル実験	1- 6	藤澤 聖史
「行事報告」 平成 26 年度第 1 回巡回検会 「宮崎県高千穂町に分布する秩父帯と G/L 境界, P/T 境界大量絶滅」報告	7- 10	福岡 環
平成 26 年度第 2 回巡回検会「御所浦地域の地質」報告	11- 15	藤澤 聖史

熊本地学会

Kumamoto Geoscience Association

2014・11・22

表紙写真

高千穂町岩戸上村の G/L 境界を観察できる露頭.

秩父帯が分布する宮崎県高千穂町岩戸上村周辺にはペルム紀中期 (Guadalupian) から後期 (Lopingian) に至る連続層序が観察できる貴重な露頭が存在する (本誌 p.7-10 の巡検報告の見学地点 1). ペルム紀中期の *Lepidolina* 帯 (岩戸層) からはサンゴや二枚貝, 腕足類などの化石ほか, フズリナの化石が多量に産出する. この露頭の大部分はのり面保護のためにモルタルが塗布されているが, 一部は保護工を施工しないで残されており, フズリナ化石などを多量に含む石灰岩層を観察することができる. なお, 巡検参加者が観察する部分より 10 m ほど右側には生物の大量絶滅が起こった G/L 境界 (本誌 p.7 の図 2) が認められる.

(写真・解説: 宮縁育夫)